

Y03a 市民が期待する双方向科学コミュニケーションについての考察 - 「星と風のサロン」における実践より -

縣秀彦、中川律子、元村有希子、郷智子、滝川洋二、原口るみ、北原和夫、曾根朋子、石井仁志、山本好昭、佐々義子、松崎伸一ほか「星と風のサロン」運営委員会

ライブハウスやジャズ喫茶に行くような気軽さで、市民が帰宅の足を止めてふらりと立ち寄れるような、気軽な科学の語り場 (= 科学サロン) を目指し、2008年11月より「星と風のサロン」をぴゅあネット事業 (障がい者施設等自主製品開発・販売ネットワーク事業) と国立天文台および市民有志の協力で開始した。この「星と風のサロン」は毎週木曜日の夕方にJR三鷹駅南口徒歩6分の「星と風のカフェ」にて事前申し込み不用で実施している。「星と風のカフェ」は、2008年7月7日にオープンした三鷹市の障がい者施設で、三鷹市とその周辺の22の心身障がい者施設で作られた製品の展示・販売が目的のお店である。より多くの市民に足を運んでもらおうと、三鷹市の求めに応じて、国立天文台も「星と風のカフェ」の運営に協力し、国立天文台のアンテナショップとしての機能も持たせていただいている。国立天文台はアウトリーチおよび地域支援の一環として、「星と風のカフェ」において知的障がい者の自立支援のため、協同でグッズの開発等を行うほか、「星と風のサロン」を実施している。「星と風のサロン」では、市民からの要望に応じて、地域で活躍している科学や芸術、文芸などさまざまな分野の専門家を招いて、科学や文化について気軽に語り合う場を提供しようとしている。第3次科学技術基本計画以降、科学コミュニケーションが奨励されているが、多くのサイエンス・カフェ等の活動の場合、研究者サイドの広報・宣伝活動の域を脱していない。星と風のサロンの活動を通じて見えてきた市民が聞きたい科学の話、市民が会って話し合いたい科学者について考察し、市民と科学者との間の双方向コミュニケーションのあるべき姿を検討する。 参照：<http://www2.bbweb-arena.com/hshcafe/hoshi-cafe.htm>